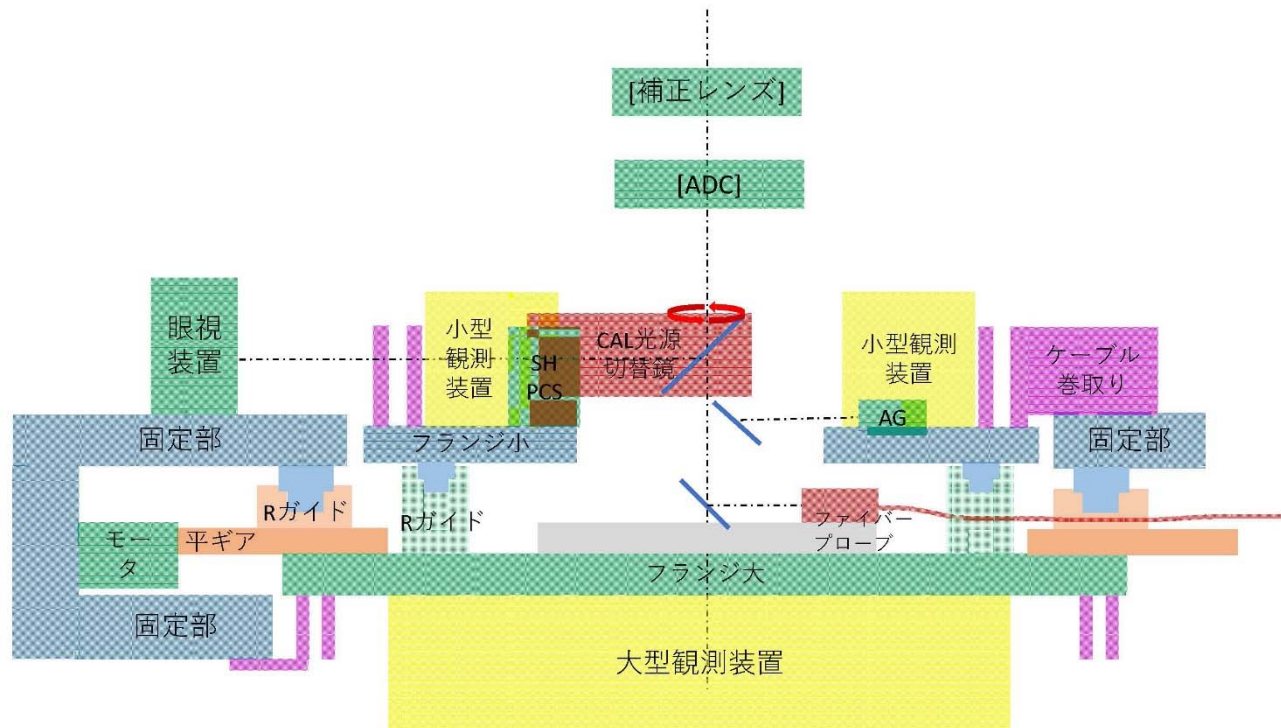


全国大学共同利用と 装置ローテータについて

神戸栄治 (国立天文台岡山天体物理観測所)



共同利用について

- 3.8m望遠鏡は、京大の望遠鏡であるとともに、1.88mの後継機として、全国大学共同利用を行う望遠鏡として位置づけられている

- 全国の大学等の研究者に一定水準の天文観測の環境を提供する必要がある
- 相応の予算、人員、科学的成果の恩恵に与ることができる

- 昨年度の光赤外ユーザーズミーティングでのお約束
(抜粋；決定事項ではない)

- **平成30年8月に**（フォトンバケット状態で）**共同利用を開始**することを目標とする
- 共同利用のための時間は、最終的には全観測時間の半分程度を予定。公開日数（最初は30－60夜/半期？）については今後ユーザー（科学委員会）と協議の上で決めていく
- 第1期観測装置としては、KOOLS-IFUと高速測光分光装置を予定

■ 科学委員会の役割は国立天文台光赤外専門委員会のもとに設置された岡山観測所プログラム小委員会が果たす

- 平成29年1月に、プロ小の役割として「3.8m望遠鏡共同利用の運用方針・計画の策定」が追加された
- 平成28年度の委員会により、国立天文台台長宛の「京都大学岡山3.8m 新技術光学赤外線望遠鏡計画における共同利用の運用方針・計画について（答申）」が作成され、光赤外専門委員会に提出された
- 平成29年度委員
佐藤文衛（東工大；委員長）、松永典之（東大）、
野上大作（京大）、峰崎岳夫（東大）、
渡邊誠（岡山理科大学）、神戸栄治（OAO）
（職名指定の委員）長田哲也（京大）、泉浦秀行（OAO）
立ち上げ期ということで、望遠鏡関係者が複数入っている
- **平成29年6月に第1期共同利用装置を募集予定**
→8月中旬に決定予定。その後、サイエンスWSなどを。
- プロ小により、現在、工程表の作成が求められている

共同利用を意識されて、引き続きご協力をお願いします。

装置ローテータについて

■ 岡山天体物理観測所が製作を主体的に行う

- 主要所内メンバー：**筒井**（代表）、松林、神戸、泉浦
- 週1回ペースで検討会を開催（現在3回目）

※その他、望遠鏡GUI（+制御系）、観測統合システムの構築で主体的に貢献する予定

■ 平成28年12月に「3.8m望遠鏡に搭載を計画している観測装置についての情報提供のお願い」を実施

- 観測装置は全部で8件。ほぼ、想定通り（京大以外がPIのものは1件）
- 現在の装置ローテータのデザインでは、ぎりぎり。

装置立ち上がりスケジュール (2017.5.25現在)

装置立ち上がりスケジュール (2017.5.25現在)

平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度
5	8		4 10 2 4			
		KOOLS-IFU (現行版)		(アップグレード版)		
		高速測光分光装置				
		近赤外相対測光分光装置				
				可視高分散分光装置?		
			GAOES-RV?			
				近赤外偏光撮像装置?		
				可視光 2色同時撮像カメラ?		
		分割主鏡調整用 Shackハルトマンカメラ				
		位相カメラ (未提出)				
		オートガイダー (未提出)				
				SEICA		

⇒第1期共同利用期間

⇒本格的リモート観

⇒第1期以降の共同利用装置の立上げスケジュールは?

■ 今後の予定

- 京大との役割分担を決めていく
仲谷さんにはOAOのミーティングに参加して頂く？
- 10月までに、各装置からの装置ローテータに対する要求仕様の洗い出し、装置ローテータの基本設計を行う
- 並行して国立天文台先端技術センターと打ち合わせを行う
- 10月以降、先端技術センターの協力を得て、最終設計、製作、試験等を実施（希望）
- 完成は早くても来年度始め？